

「浦島太郎のお話について」 渡辺久美子

「浦島太郎」は日本では実に有名^な昔話だ。^も現^に私^{自身}、幼いころ母親に聞かされた記憶がある。しかし、今読み返してみると当初は何も疑問に思わなかった^{こと}事が浮き彫りに^な成^りてきた。^たしかに浦島太郎は物語の主人公としてあまりにも^{かわいそう}不憫だ。亀を助けた結果^の応報^が突然^にの見知らぬ現実に放り出された。揚句の果て^に老人になったりと散々な目にあう。こんな昔話に普通のおとぎ話に^ならあ^るまじき子供たちへの教訓などあるのだろうか？子供達は色^々々な意味で好奇心^{旺盛}大^きせいで、軽率な行動も目立つ。浦島太郎もそうだ。^そも^も太^郎が^にお礼^にという亀の言葉に^{ほたて}絆^にされ^て未知なる世界へ^へホィホィと着いていった結果あ^なな^{った}のだから自業自得、同情は出来ない。^{軽教}子供達もこの話を聞いたら簡単に変な所へは行かないだろう^し軽率な行動も慎むだろう。約束も守るものと認識する^のだから^{十分}この話は子供達にとって良い教訓になると思う。